

令和4年度第1回一色中部小学校関係者評価委員会 記録

日 時 令和4年6月24日（金）
午前10時から午前11時30分まで
会 場 西尾市立一色中部小学校 会議室
参加者 学校関係者評価委員6名（欠席1名）、
校長、教頭、教務主任、校務主任、事務主任

1 委嘱状交付伝達（五十音順） 省略

2 自己紹介 省略

3 めざす学校と学校評価指標（校長）

新型コロナウイルスの感染状況だが、最近陽性者はほとんど出ていない。教育活動の制限については、マスク着用と黙食以外はほぼ解除し、コロナ前の状況に戻ってきている。マスクは、熱中症予防のため、登下校や体育の授業、外遊びの時は外してよいと指導している。マスクをつけるよう指導している家庭もあると聞くため、「外しなさい」ではなく「外してもよい」という指導をしている。実際にはなかなか外さないで、「みんながつけているからつけている」ではなく、外したかったら外してよいという指導をしていきたい。徐々に子どもたちが生き生きと過ごせる学校に戻ってきたと感じている。

(1) 学校経営スローガンと手だてについて

リーフレットについて。今年度は昨年度より2クラス減の、19学級480名である。もともと、学年70名から80名の規模であるので、児童数としては昨年度より11名減ただけであるが、今年度ぎりぎりの3クラスが2クラスになった。教職員数は42名。年代別構成は、20歳代10名、30歳代4名、40歳代7名、50歳代3名、60歳代4名。若手とベテランが刺激し合い、活気のある学校にしていきたい。

本校は今年度創立150周年を迎える。現在、記念事業として、低学年広場の整備を行っており、芝生を植え、池をきれいにして、遊具のペンキ塗りを行った。夏休みに新しいジャングルジムを設置し、子どもたちが楽しく遊べる広場が完成する予定である。10月25日には、これらの事業に対してご協力いただいた方たちをお招きして、記念式典を行う予定である。

今年度は大きな節目の年であるということで、学校経営のスローガンを、新しく「明日も行きたくなる学校」とした。子どもたちが1日を終えて家へ帰ってきたときに、「明日もあんなことやこんなことがある。楽しみだなあ」とつぶやけるような学校をつくらしていきたい。九つの手だてがあるが、今年度は特に校外学習や体験学習に力を入れたい。学校

から外に出て、勉強したりものづくりを体験したりすることは、子どもにとってわくわくするものであるが、ここ2年間はコロナ禍でなかなか計画できなかった。今年度はできる限り校外学習や体験学習を復活させ、また増やしていき、子どもたちが「学校大好き」という気持ちをもてるようにしたい。その計画の一つとして、本校OBであり、にしおスイーツ特命大使である高須聡氏をお招きし、2年生と4年生で、夢を叶えることや、チョコレートづくりの秘密について聞いてみたい。

(2) 学校評価指標と学校評価アンケートについて

今年度、学校評価のやり方を少し変えた。これまでは保護者や児童、教員のアンケートを踏まえて総合的に評価していたが、保護者は子どもの口づてに聞くこともあり、児童は教育活動のねらいがすべてわかっている訳ではないため、児童・保護者のアンケート結果を参考にしながら、最終的に教員が、教育活動を適切に行えているかどうかを評価することとする。客観性のある評価になるよう十分気を付けたい。十分に実施できなかった手だてについては、改善策を考えてさらに効果が上がるよう進めていきたい。

アンケート方法も変更し、これまではマークシートだったが、保護者についてはメールで回答していただく。児童も、タブレットを使って回答する。マークシートは、低学年の子にとって濃く塗りつぶすことが難しく、担任が再度塗りつぶしていた。アンケートソフトは自動集計ができるため、担任の先生方の負担軽減にもなると考えている。

(3) 働き方改革について

今年度は、働き方改革の取り組みの一つとして日課の変更を行った。児童の帰る時間を昨年度より25分早くした。児童の帰宅後に教職員が仕事をする時間を確保することができ、退勤時間は昨年度より早くなっている。

本日は意見交換の中で、新たな学校経営方針を充実させるための方策について、忌憚のないご意見をいただければと思う。

4 今年度の学習指導について（教務主任）

子どもにとって、学校で受ける授業の内容が「わかる・できる」と思えることが、学校生活を明るく過ごす上で一番大切であると考え、「わからない・できない」という思いがあると、学校生活が苦しいものになってしまう。毎日の授業の中で、「わかる・できる」を感じられるよう学習指導を進めていきたい。

学習規律について。学習の基本として、教職員が共通理解して指導している。机上の整理、話し方、聞き方、書き方の基本となるものを徹底するようにしている。また、教師の取り組みとして、子ども同士が関わり合って考えを深められる場面の設定、学習内容に合わせて座席隊形や学習形態を工夫すること、振り返りを大切にして自分の気持ちや考えをまとめて整理する時間をつくることに取り組んでいる。学習規律はどの教科においても土台になるものと考え、継続して指導していきたい。

授業改善の取り組みについて。「わかる・できる」を実感できる授業を目指して、今年度

は算数の授業改善に取り組む。全教員で授業づくりができる教科であること、1時間の中で完結する授業展開ができる教科であることから、算数の実践を通して教員の授業力向上を図ることとした。7月に講師を呼んで授業研究会を行い、2学期は全担任が授業実践を行う。基本に立ち返り、教科書の内容を大切に扱うことを目指す。教科書の内容を教員が正しく理解して授業を行うことは必要不可欠だと考える。また、計算スキルの習得だけにとどまらず、思考力を高める授業づくりを目指していきたい。

I C T教育について。タブレットが導入されてちょうど1年が経ち、デジタル教科書が導入され始めている。また、家庭学習でのタブレット活用を5月末から行っている。家庭学習の内容は、操作に困らない内容、家庭の負担にならない内容、基礎的な内容に限定している。今後は、発達段階を踏まえて、有効な学習内容や適切な活用方法を検討していきたい。児童のタブレットの保管・活用に関しては共通理解事項をもとに指導している。

授業においてタブレットを活用する場面としては、資料提示、学び合いの促進、基礎学力の定着がある。各クラスの大型テレビに資料を映し出すことで、みんなで同じ資料を見て話し合いができる。拡大縮小やペンで印を書くこともできるため、視覚的な情報提示ツールとして有効である。ノートに書いた内容をテレビに映すこともできるため、自分の考えを説明したり、話し合いをしたりする場合にも有効である。また、観察や校外学習において写真を撮って記録することができるため、教室へ戻ってから、写真を見ながら気づいた点や考えを共有でき、言葉で伝わりにくいところを視覚情報として伝えられるメリットがある。

基礎学力の定着においては、何度も同じ問題に取り組んだり、その子の力に応じた問題に取り組んだりすることができる。算数の計算力を高めるのに効果があると考えられる。

このようにタブレットを活用しているが、小学校においては実物を見たりさわったりする直接体験も重要である。「便利だから使う」のではなく、適した使い方をするすることで、アナログとデジタル双方のよいところを取り入れて学習を進めたい。

5 いじめ・不登校・問題行動対策について（校務主任）

5月に心のアンケートを行い、その後担任と児童で最近の生活の様子について話をする教育相談を実施した。

「いじめられている」と答えた児童は26人で、「悪口」「仲間外れ」「暴力」という理由が多かった。コロナ対策の緩和を受けて、子ども同士の関わる距離が近くなり、友達と関わる時間も増えたと思われるため、ソーシャルスキルを身に付ける指導を改めて行う必要があると考える。また、「持ち物を隠された」という回答が増えた。自分の物や他人の物の取扱いについて、引き続き指導していきたい。「いじめを何人にされているか」という問いに対しては、「2～3人」という回答が最も多かった。集団の中で個の優劣の意識が生まれてくると、複数対1人のケースが増えてくる。児童が孤立しないよう留意し、集団対集団の嫌がらせに発展しないよう指導を進めたい。いじめられたとき「一人でがまんした」と回答した児童への対応は丁寧に行いたい。教師から声をかけたり、保護者に相談して話を聞いてもらったりするなど、周りからのアプローチが大切になる。アンケート結果から、約半数のいじめは継続して起きていることがわかったため、一定期間経過観察を続けていく必要があると

考えている。

「学校に行きたくないと思ったことがある」と回答した児童は、昨年度に比べて減少傾向だが、「勉強が分からない」「給食が嫌い」という理由が昨年度より増えている。個への的確なアプローチを大切にし、手だてを工夫することで学習につまずいている子たちも「わかる」「楽しい」と思える瞬間をつくり出せるよう努めたい。給食については、食べる時間を多くとったり、本人と相談して量を調節したりして、食べられたという達成感を与えながら給食に対する苦手意識をなくしていきたい。また、バランスよく食べる大切さを食育等で啓発していきたい。

「楽しくない」「疲れた・なんとなく」という理由で学校へ来たくない児童を減らすことが、「明日も行きたくなる学校」をスローガンに掲げる本校の課題である。授業や学校行事、日常生活を通して、児童が楽しいと思える瞬間や成長できたと感じる成功体験を積み上げていきたい。

6 意見交換

委員1：最終評価を教員が行うということだが、本来は第3者が行った方がよい。しかし、現状の学校のいろいろなことをすべて見ている訳ではないため、第3者評価は難しく、仕方ないと感じた。

私自身も iPad を仕事で使用しているが、デジタル社会であるので子どもたちも iPad の使い方を覚えていけば損はない。Google のアンケートも、データがしっかり出るので、画期的な取り組みであると感じた。

委員2：学校評価のやり方は勉強になった。本校では保護者や地域の方からのアンケートを元にそのまま総括している。中部小の学校経営評価指標の各項目に対してアンケート結果をそれぞれ位置付け、それを教職員に戻して評価し直すのは新しい視点である。「できている」に対する評価が、保護者と教職員でずれていることもあるため、もう一度戻すことは大事だと思った。

委員1：学習規律について。今までは、一つの授業でも例えば30人に対して統一した同じ授業しかできなかったものが、タブレットを使うことによってレベルに合わせた授業ができる。人により到達度は違う。できる子は到達度を上げることもできるため、よい方法である。昆虫観察も、目で見たものを具体的に絵にすることはなかなか難しいが、タブレットを使って共有ができれば、こういう見方があるのだと気付くことができる。

委員3：そろばん教室ではフラッシュ暗算をやる。よくできる子で8桁くらい。タブレットでもできると思う。考えてやるものではないので、右脳が活性化するとされている。

委員1：タブレット使用については、メリット、デメリットはあると思う。家族が使っていると、それを見て自然に子どもも操作を覚えてしまうが、そうでない子はどうか。どうしても差が出てしまうのではないか。

教務主任：昨年度使い始めた時の個人差は非常に大きく、家で使っている子はどんどんできてしまっていた。学校においては、学習のツールであり自由に使ってよい訳ではないため、同じ約束のもとで使っている。1年生の文字の入力のしかたや写真の撮り方などの指導から

始め、学習においてどの子どもも平等に基礎的な使い方ができるようにしている。

委員3：行事について、学芸会がなくなり学習発表会に変わった。学習発表会の評判はどうだったか。また、今年度なくなったり縮小したりした行事はあるか。

教務主任：1年生は音読、2年生は鍵盤ハーモニカとカスタネットの演奏を、各教室で行った。3年生は音楽づくりと歌、4年生はリコーダー演奏と言葉のアンサンブル。5・6年生は学年での発表を行った。5年生はボディパーカッション、6年生は英語の歌と寸劇に取り組んだ。保護者からは、子どもと近い距離で、普段の授業で頑張っている様子を見られたことがよかったという意見が多かった。来年度に向けて、どのような授業の内容を見てもらえるとよいか、幅を広げながら考えていきたい。

委員3：以前、ブログで普段の生活の様子を見られるとよいと発言したが、授業を楽しく行っている様子が見られるのはよいと思う。

教務主任：行事については、引き続きコロナ対策で制限される部分はあるが、ほとんどの行事を以前のように実施できるようになった。授業参観を4月に行い、運動会を11月に実施予定である。なわとび集会や、なかよし集会といった児童会の活動も、昨年度の終わり頃から少しずつ行うことができている。

校務主任：資源回収について、今年度から保護者に学校へ持ってきてもらう形に変更した。地域の方からの回収はできなくなったが、協力して持ち込んでいただいた家庭もあった。変更したばかりなので、回収量は減った。

委員4：資源回収のやり方を変更したことは知らなかった。浸透すれば、学校に子どもが通っている保護者でなくても多くの方が持ち込むようになるのではないかと。

委員5：マスクについて。登下校時にマスクを外してもよくなった時に、子どもが「高学年の子が外していないから外しにくい」と言っていたと話していた保護者がいた。保育園でもマスク着用を一律に求めておらず、暑いので、外すよう伝えているが、保護者が心配してマスクをつけるよう言っているのか、かたくなに外さない子もいる。小学生も特に低学年は心配だと思う。声をかけることによって変わっていくのかなと感じた。

校長：現在学校評価アンケートを実施中だが、その中に上級生が外していないと外しにくいという意見があった。昨日、教職員に伝え、今日の帰りにもう一度周知することになっている。登下校時にマスクを外さない理由を子どもたちに聞くと「話をしたいから」と答えた。マスクを外す時は会話を控えることになっているため外していないようだ。

教頭：心のアンケートで、学校に行きたくないと思ったことがある理由として「疲れた・なんとなく」という回答が多いことについてはどう考えるか。

委員1：一番抽象的な選択肢なので、これを選びやすかったのではないかと。

委員4：日課が変わったのは、中部小独自の事か、西尾市内全体で変更されたのか。

校長：本校だけが変更した訳ではないが、市内全校ではない。日課を詰めて朝の学習の時間がなくなったことによるデメリットもある。教職員と相談しながらよりよい形にしていきたいと考えている。

教務主任：木曜日の朝は、読み聞かせやしおさいタイム、全校集会を行うための時間を確保している。

委員2：中学校も、中部小の心のアンケートと同じような項目でアンケートを実施している。いじめの件数は中学校でも減っているが、それはコロナによる関わり合いの機会の減少によるものだと考える。家庭でのオンラインゲームやSNS等のトラブルの多いことが、以前と変わってきた点であり、大変心配である。SNS上でのいじめや人間関係に疲れて、笑顔になれないということもあるので、生徒会主導でルール作りに取り組み始めた。そのためのアンケートで、夜中の12時を過ぎてもオンラインでやりとりしているという回答が20%もあった。朝起きられなくて不登校になることもある。家庭での過ごし方に学校がどうアプローチしていくか。保護者がトラブルの起きていることを知らないこともあった。

7 今後の予定

第2回：令和4年11月25日（金） 9：30～ ※授業参観あり

第3回：令和5年 2月22日（水）10：00～

8 謝辞

長時間ありがとうございました。いろいろと時代が変わってきているということがお分かりいただけたかと思う。学校が家庭にどこまで関わるかは常に悩んでいるところである。ただ、連携することは大事だと考えるため、情報を家庭に伝えて協力していきたいと考えている。本日はありがとうございました。